

製品名: カルレギュリンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07874**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,FC
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:100-1:500,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:50-1:200
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	CALR
別名	CALR; CRTC; Calreticulin; CRP55; Calregulin; Endoplasmic reticulum resident protein 60; ERp60; HACBP; grp60
遺伝子 ID	811.0
SwissProt ID	P27797
免疫原	抗血清はヒト CALR 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 21-70

背景

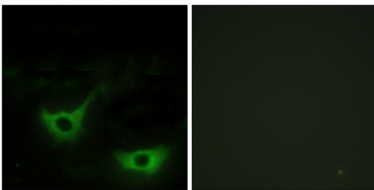
カルレティキュリンは、小胞体腔内における主要な Ca(2+)結合（貯蔵）タンパク質として機能する多機能タンパク質です。また、核

内にも存在することから、転写調節に関与している可能性が示唆されています。カルレティキュリンは、核内受容体スーパーファミリーの DNA 結合ドメインのアミノ酸配列とほぼ同一の合成ペプチド KLGFFKR に結合します。カルレティキュリンは、全身性エリテマトーデスおよびシェーグレン症候群患者の特定の血清中の抗 Ro/SSA 抗体を含む抗体に結合します。種間で高度に保存されており、カルシウムと結合する可能性のある小胞体および筋小胞体にも存在します。カルレティキュリンのアミノ末端はグルコシル化糖タンパク質受容体の DNA 結合ドメインと相互作用し、受容体が特異的なグルコシル化糖タンパク質応答エレメントに結合するのを阻害します。カルレティキュリンは、アンドロゲン受容体とその結合を阻害することができます。注意: 当初 (PubMed:2332496)、52 kDa の Ro 自己抗原であると考えられていました。ドメイン: P ドメインによって形成された延長した腕の先端を介して PDIA3 と結合します。ドメイン: N 末端球状ドメイン、プロリンに富んだ細長い腕のような構造を形成する P ドメイン、および C 末端酸性ドメインに分けられます。P ドメインは 1 分子のカルシウムと高い親和性で結合しますが、酸性 C ドメインは複数のカルシウムイオンと低い親和性で結合します。ドメイン: グリカンとの相互作用は、球状レクチンドメインの結合部位を介して起こります。ドメイン: 亜鉛結合部位は N ドメインに局在しています。機能: カルレティキュリン/カルネキシンサイクルを介して ER でのフォールディング、オリゴマー組み立て、および品質管理を促進する分子カルシウム結合シャペロン。このレクチンは、ER で合成されるほぼ全てのモノグルコシル化糖タンパク質と一時的に相互作用する。NR3C1 の DNA 結合ドメインと相互作用し、核外輸送を媒介する。質量分析: PubMed:11149926, オンライン情報: カルレティキュリン, オンライン情報: カルレティキュリンエントリー, 類似性: カルレティキュリンファミリーに属する。細胞内局在: 細胞表面 (T 細胞)、細胞質、細胞外マトリックスにも存在する。細胞傷害性 T リンパ球の溶解性顆粒と関連する。サブユニット: モノマー。少なくとも CUGBP1、CALR、CALR3、EIF2S1、EIF2S2、HSP90B1、および HSPA5 から構成される EIF2 複合体の構成要素である。PDIA3/ERp57 および NR3C1 と相互作用する。

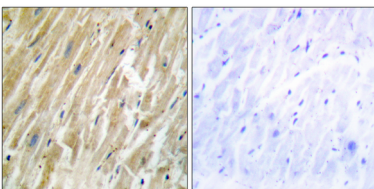
研究分野

抗原の処理と提示

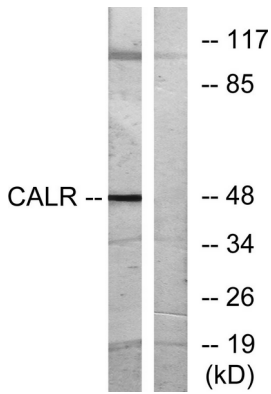
画像データ



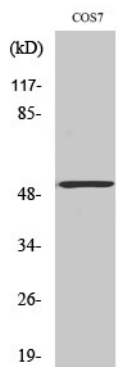
CALR 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CALR 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CALR 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



カルレギュリンポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析